

欧州心臓病学会 (ESC Congress 2025 MADRID) を振り返って

今回、スペイン・マドリードで開催された ESC Congress 2025 に参加し、Clinical Cases の発表を行う機会を頂きました。

今回の発表は、関連病院(宮崎県立延岡病院)に在籍している中で、若手でも Clinical Case に応募してみないかと宮崎大学から声をかけて頂いたことがきっかけでした。採択率は高くないと聞いていましたが、当院ならびに宮崎大学の先生方のご指導を受けながら演題をまとめ、応募に至りました。少し前に経験した症例で ACS の非常に complication な当院スタッフ総出で救命した症例でしたので何とか通らないかと思い応募しました。数か月後に採択通知のメールが届いた時は非常に嬉しかったです。

初めての国際学会で具体的には想像できていませんでしたが、漠然とした憧れはあり、とりあえず出してみようという気持ちで挑戦しました。実際、学会会場を目にした時はそのスケールの大きさに気分が高揚し、同時にこの中で発表するのかと一気に緊張感が高まりました。発表は Clinical Cases Session で行われ、足が震えながらでしたがプレゼンテーション自体はなんとか終えることができました。質疑応答では比較的シンプルな質問を頂き、拙いながらも辛うじて対応できました。これまで先輩方が日本や海外で英語発表するのを目にし、自身も1年以上前から海外で発表することを一つの目標に掲げ、少しずつ英語学習を継続してきた中で、もちろん反省点は多く残りましたが、最低限ながらも現地で対応できたことは自分にとって大きな意味を持つ経験でした。同時に、今後も世界の舞台で戦っていくにはまだまだ未熟であることを痛感し、次につながる大きなモチベーションにもなりました。今回の経験を踏まえ、今後は臨床研究の分野でも精進し、日々の地道な積み重ねから再び国際学会でも成果を発表できればと考えています。

また学会の合間にはスペインの街を歩き、初めてのスペインの雰囲気や文化に触れることができました。観光・食事・サッカー観戦など非常に充実した時間でした。エムバペの幻の2ゴールはオフサイドで消えていました。多様な人種・文化に囲まれながら、自分自身の人生において大きなステップを踏めたと感じました。

最後に、このような貴重な機会を与えてくださり、演題作成から現地での発表準備に至るまで親身にご指導くださった当院(宮崎県立延岡病院)ならびに宮崎大学の先生方、一緒に患者の救命のために戦った看護師さん、MEさんを初めとした当院スタッフの皆様、いろいろと手配して頂いたスタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。今回の経験を糧に、今後も自身の研鑽を続けるとともに、後輩へも還元できるよう努めて参りたいと思います。

伊豆元 心太郎







